

G I G Aスクール構想の推進について

[教育センター]

I 国が進めるG I G Aスクール構想の理念について

- 一人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子どもを含め、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する。
- これまでの我が国の教育実践と最先端のICTのベストミックスを図ることにより、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す。

II 富山市における一人1台端末の活用について

1 授業における活用



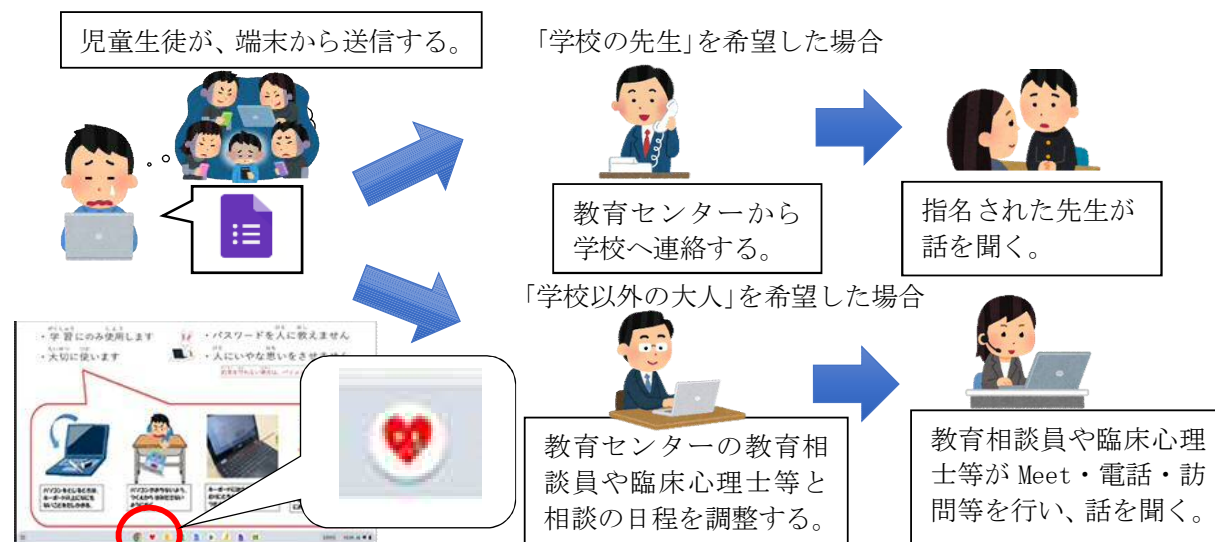
子どもたちは、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」など、あらゆる学習場面で一人1台端末を活用しながら、学習を進めている。

写真のように学習する場所や一緒に学習する相手も自分で決めることで、子どもの自己調整を促し、主体的な学びへとつなげることができる。子どもたちが必要な場面で端末を活用できる環境を整え、個別最適・協働的な学びの実現を目指している。

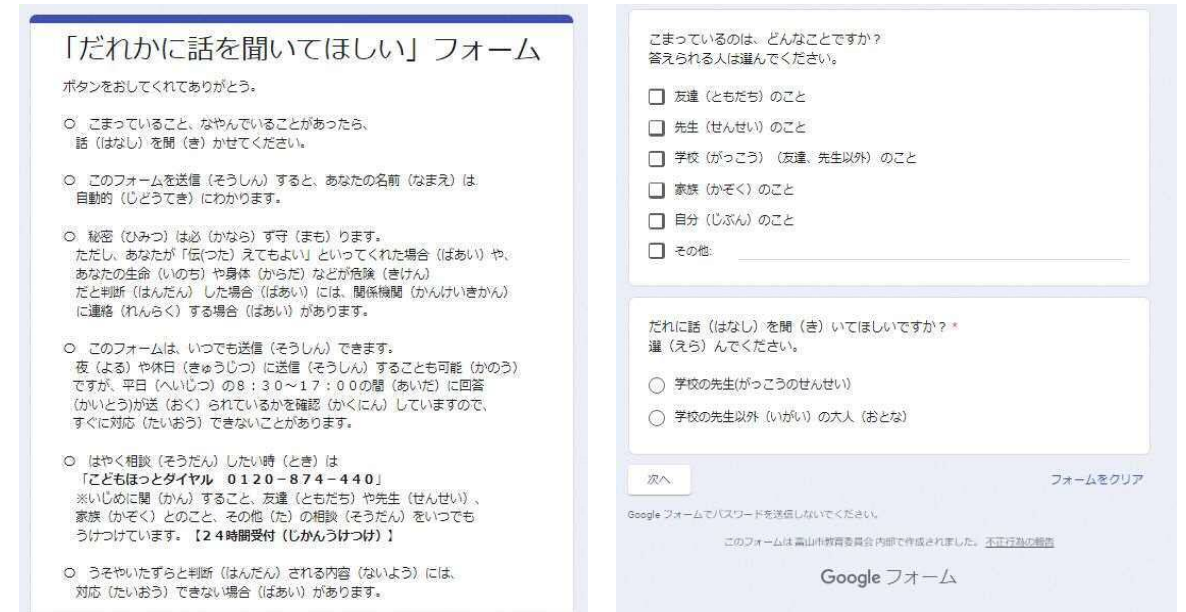
2 教育相談受付システムとしての活用

児童生徒等が、相談したいときに意思表示ができるよう、一人1台端末の画面下部にハートマークのアイコンを表示し、入力フォームにつながるような仕組みを整え、4月24日から運用を開始している。

(1) ボタンを押してから相談までの流れ



(2) 児童生徒が入力するフォーム



(3) これまでの相談件数

【教育相談受付システム利用実態（4月24日～6月30日）】

| | 学校の先生 | 学校外の大人 | 校種別計 |
|-----|-------|--------|------|
| 小学校 | 250 | 173 | 423 |
| 中学校 | 28 | 19 | 47 |
| 合計 | 278 | 192 | 470 |

悩みを言い出しづらい児童生徒が自分から相談をしたいと働きかけ、実際に相談へとつながったことをきっかけとして、困ったときにはいつでも自分からSOSが出せるようにしていきたいと考えている。

3 校務における活用



Google Workspace for Education は、学習だけではなく、校務にも活用することができる。先進的な学校における実践事例をスライドにまとめ、実際に操作をしている様子を動画で撮影して公開することで、各校における端末活用を促進し、校務の効率化につなげている。

Ⅲ 今後の展望について

1 教育DXの推進

令和6年度更改予定の教育ネットワークでは、クラウドサービスの利活用を前提とし、セキュリティを確保した上で、教育DXに係る下記4項目の実現を目指す。

- ・校務系・校務外部系・学習系システムの三層分離による操作性の弊害を改善しシステム間のデータ連携を可能にする
- ・**一人1台端末で生成される教育データを利活用し、児童生徒への支援の充実と個別最適な学びの更なる実現を目指す**
- ・教職員の校務用端末と学習用端末を1台化し、端末整備費用を低減させるとともに、業務の効率化を図る
- ・耐震性に優れたデータセンターにデータを保存することで、災害等によるデータ消失を防ぎ、業務の継続性を確保する

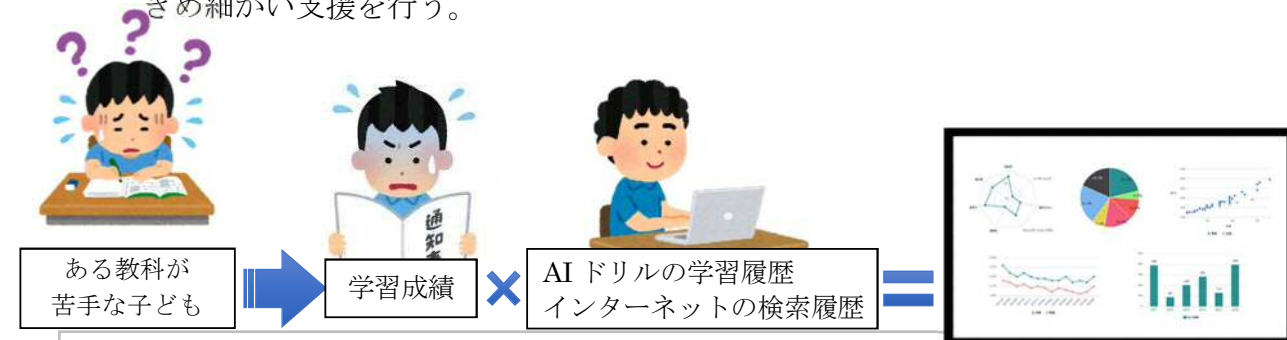
2 教育データの利活用

- (1) 学習に関するデータと**定期検診や毎日の健康観察、食習慣に関するデータ**^{※1}、**周囲との関係に関するデータ**^{※2}、**日々の端末の使用履歴**^{※3}等を連携させることで、これまで見つけることが難しかった**潜在的に支援が必要な児童生徒**^{※4}を早期に発見し、必要な支援を行う。



- ※1 保健機能で管理される検診結果や病歴、保健室の来室記録等に関する記録（今後導入を検討）
- ※2 定期的実施するアンケート等による学校生活に関する調査
- ※3 インターネットへのアクセスログ、語句や画像、動画等の検索・閲覧履歴（興味・関心）
- ※4 いじめを受けている、不登校傾向がある、虐待の可能性のあるなどの児童生徒

- (2) 校務系端末で扱う学習成績等のデータと、**一人1台端末から収集可能な学習履歴**^{※5}等のデータを連携させることで、学習のつまずきを正確に把握した上で、きめ細かい支援を行う。



- ※5 AIドリルやデジタル教科書等の学習履歴（習熟度や進捗状況）
学校、家庭での端末の使用状況（学習意欲）
語句や画像、動画等の検索・閲覧履歴（興味・関心）

Ⅳ 課題について

1 端末の利活用状況

端末の利活用において、学校間・教員間に格差が見られる。そのため、学習と校務の両面において、次の取り組みを行い、市全体に渡る利活用の横展開及び小・中学校の連携・接続により格差の解消を図る。

- ・効果的な活用に関する教職員研修
- ・GIGAスクール推進校、GIGAスクール推進モデル校による授業公開や実践事例の提供
- ・実践事例を集めたデータベースのさらなる充実と共有

2 端末の更新費用について

(1) 令和2年度の購入実績

事業費 1,509,409,000円

| | | | |
|----|---------------------|---------|----------------|
| 内訳 | 児童生徒用端末 | 29,889台 | |
| | 公立学校情報機器整備費補助金 | | 1,068,111,000円 |
| | 学校のICT環境整備に係る地方財源措置 | | 380,057,000円 |
| | 教師用端末、児童生徒予備端末 | 1,334台 | |
| | 一般財源 | | 61,241,000円 |

(2) 現在の端末の使用年数

| | | | | | | | |
|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 令和2年度 | 3年度 | 4年度 | 5年度 | 6年度 | 7年度 | 8年度 | 9年度 |
| 経過年数 | 1年目 | 2年目 | 3年目 | 4年目 | 5年目 | | |

導入

更新

令和2年度末に5年間のリース契約をして導入したことから、令和7年度末にリース満了となる。一人1台端末の環境を切れ目なく維持するには、**令和7年度中に更新**する必要がある。

(3) 端末の更新費用見込み

事業費 1,923,995,040円

内訳 児童生徒用端末 28,278台（令和7年度児童生徒見込数）
58,410円^{※6}/台×28,278人 1,651,717,980円
※6 同機種後継機端末の新規購入見積額（令和5年3月現在）

児童生徒用予備端末 566台（故障率を2%として算出）
58,410円×566台 33,060,060円

教師用端末 1,977台（令和5年3月現在）
121,000円^{※7}×1,977台 239,217,000円

※7 校務と学習を1台で行うため、児童生徒用端末より性能の高い端末を採択予定

(4) 端末の修繕費

導入から3年目となり、端末の破損が増加している。修繕費について予算を確保し、継続して端末を活用できる環境を整えていかななくてはならない。